パラレル・データ出力切替器

# DSW-PV301 取扱説明書

## 1. 安全上の注意

本製品を安全にお使いいただくために、製品をお使いになる前には、必ず本書をお読みください。

- 煙が出ている、機器の外側が異常に熱くなる、変なにおいや音がするなどの異常状態のままで使用しないでください。火災・感電の原因となります。ただちに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、本製品に接続されているケーブルを取り外してください。
- 本書で指示されている以外の分解や改造はしないでください。けがや火災・感電の原因となります。
- 付属の AC アダプタをご使用ください。それ以外のものを使用すると火災の原因となります。
- 通風孔などの開口部から、内部に金属物や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。まず、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、本製品に接続されているケーブルを取り外してください。
- 破損した電源コードを使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 電源プラグの取り扱いには注意してください。
  ① 電源プラグをホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
  ② 電源プラグを刃の根元まで確実に差し込む。
- 衝撃や振動の伝わる場所、不安定な場所でのご使用および設置・保管は避けてください。
- 安全のため、長期間ご使用にならないときは、本製品に接続されているケーブルを取り外し、電源プラグをコンセントから抜いてください。



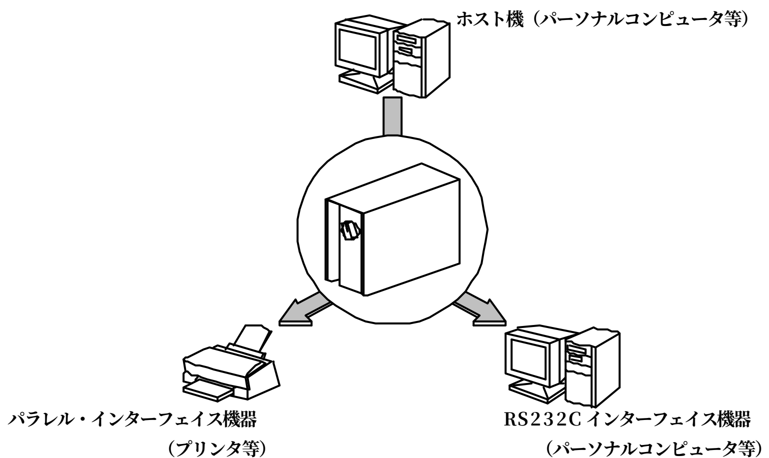
## 2. 本製品の特長

本製品は、ホスト機（パラレル・ポートを装備したコンピュータ）とパラレル・インターフェイス機器（プリンタ）間に設置することで、次のインターフェイスをおこなうことができます。

- ホスト機からのパラレル・データをそのままパラレル・インターフェイス機器（プリンタ）へ出力します。
- ホスト機からのパラレル・データをシリアル・データに変換し、RS232C インターフェイス機器（パーソナルコンピュータ等）へ出力します。



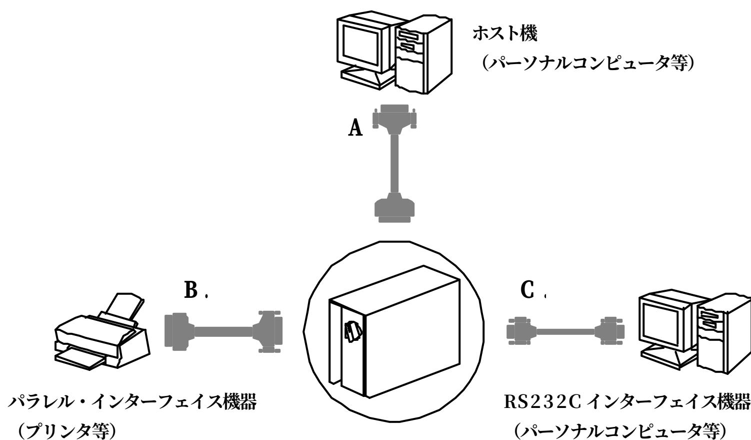
出力切り替えは、ロータリスイッチでおこないます。
本製品は、RS232C インターフェイス機器からのシリアル入力
およびパラレル・インターフェイス機器からのデータに対するシリアル変換には対応しておりません。




設置の際は、各種インターフェイスケーブルやAC アダプタが接続しやすいように十分なスペースを確保してください。

# 3. ケーブルの接続

ホスト機と本製品、パラレル・インターフェイス機器およびRS232C インターフェイス機器と本製品を接続するためのケーブルには種類があります。
ご使用される機器や目的・用途などに応じて、適切なケーブルをご用意ください。




A. パラレル・インターフェイスケーブル
ホスト機と本製品を接続するためのケーブルです。本製品のコネクタに接続されるケーブルのコネクタ形状は、セントロニクス 36pin 57型オス（マイクロリボン 36pin オス）です。
ホスト機がパーソナルコンピュータの場合は、市販のプリンタケーブルがご使用になれます。(*1)

B. パラレル・インターフェイスケーブル
本製品とパラレル・インターフェイス機器（プリンタ）を接続するためのケーブルです。本製品のコネクタに接続されるケーブルのコネクタ形状は、D-sub 25pin オスです。
パラレル・インターフェイス機器がパーソナルコンピュータ用プリンタの場合、市販のプリンタケーブルがご使用になれます。(*2)

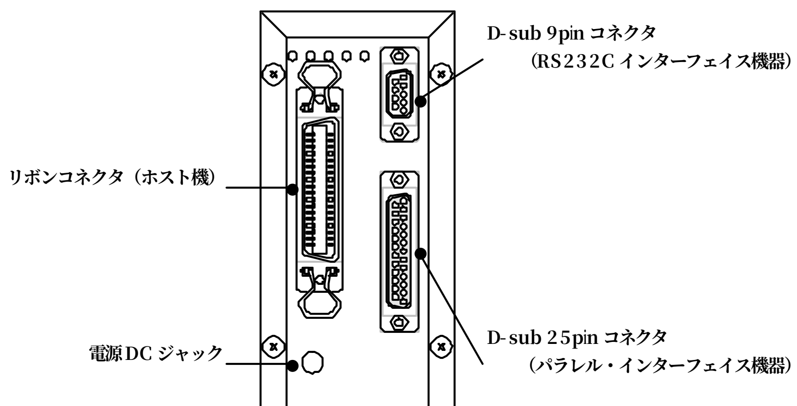
C. RS232C インターフェイスケーブル

本製品と RS232C インターフェイス機器を接続するためのケーブルです。
本製品のコネクタに接続されるケーブルのコネクタ形状は、D-sub 9pin メスです。
RS232C インターフェイス機器がパーソナルコンピュータの場合、市販の RS232C ケーブル（クロス仕様）がご使用になれます。(*3)

---

*1 ご使用されるパーソナルコンピュータによって、パラレル・ポートのコネクタ形状が異なります。パーソナルコンピュータに付属の説明書をご参照ください。
*2 ご使用されるプリンタによって、接続するコネクタ形状が異なります。
プリンタに付属の説明書をご参照ください。
*3 ご使用されるパーソナルコンピュータによって、シリアル・ポートのコネクタ形状が異なります。パーソナルコンピュータに付属の説明書をご参照ください。

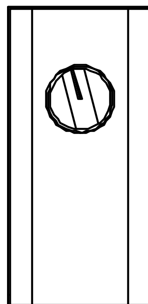
---



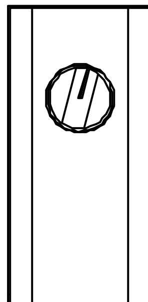
## 4. 使用方法

① 本製品の電源がOFFの状態（ACアダプタのプラグが未接続の状態）で、ホスト機、パラレル・インターフェイス機器およびRS232Cインターフェイス機器と適切なケーブルで接続します。
② RS232Cインターフェイス機器の通信条件に合わせて、DIPスイッチを設定します。（「5. DIPスイッチの設定」をご参照ください。）
③ 本製品の電源をONします。
④ ロータリスイッチでデータ出力先を切り替えます。

● パラレル・インターフェイス機器へ出力する場合
ロータリスイッチを反時計方向に回します。



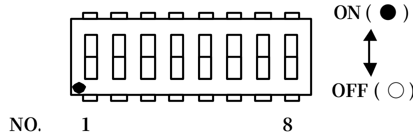
● RS232Cインターフェイス機器へ出力する場合
ロータリスイッチを時計方向に回します。



⑤ インターフェイス機器側が、動作可能な状態であることを確認します。
⑥ ホスト機からデータを出力させます。
ロータリスイッチで指定された出力先のインターフェイス機器へ、データが出力されます。

## 5. DIP スイッチの設定

RS232C インターフェイス機器との通信条件および動作モードを設定します。
(DIP スイッチは、本製品の底面に配置されています。)




● RS232C 機器との通信条件

| 項目 | NO. | 設定 | | 機能 |
|---|---|---|---|---|
| ストップビット | 1 | ● | 1-bit | ストップビットのビット数を設定します。 |
| | | ○ | 2-bit | |
| パリティビット | 2-3 | ●● | None | パリティビットを付加するか否かを設定します。 |
| | | ○● | None | |
| | | ●○ | Even | |
| | | ○○ | Odd | |
| データ・ビット長 | 4 | ● | 7-bit | データのビット長を設定します。 |
| | | ○ | 8-bit | |
| ビット / 秒 | 5-7 | ●●● | 1,200 | ビットレートを設定します。 |
| | | ○●● | 2,400 | |
| | | ●○● | 4,800 | |
| | | ○○● | 9,600 | |
| | | ●●○ | 19,200 | |
| | | ○●○ | 38,400 | |
| | | ●○○ | 57,600 | |
| | | ○○○ | 115,200 | |

* 通信条件の設定は、ご使用されるRS232C 機器に適合するように設定してください。
* お客様の目的、用途に合わせて設定してください。



本製品のRS232C インターフェイスにおける 1 キャラクタの転送データ長(スタート/ストップビット含む) は、最大11 ビット/フレームになります。
従い、データ・ビット長が 8 ビットのキャラクタに対して、パリティビット+ストップビット(2)の組み合わせは設定できません。

● 動作モード

| 項目 | NO. | 設定 | | 機能 |
|---|---|---|---|---|
| 動作モード | 8 | ● | RUN | 本製品の動作モードを設定します。RUN は通常の動作モード、TEST はRS232C 通信のテストモードです。 |
| | | ○ | TEST | |

* 通常の動作モード（RUN モード）に設定した場合は、ホスト機からのパラレル・データをパラレル・インターフェイス機器またはRS232C インターフェイス機器へ出力します。
また、テストモードに設定した場合は、テスト用の文字列データをRS232C インターフェイス機器へのみ出力します。

## 6. シリアル通信のテスト機能

本製品の動作モードをテストモードに設定することで、RS232C インターフェイス機器との通信条件およびケーブルの適合および接続の確認がおこなえます。

① 本製品の電源が OFF の状態（AC アダプタのプラグが未接続の状態）で、RS232C インターフェイス機器と適切なケーブルで接続します。
② DIP スイッチで通信条件および動作モードを設定します。
③ RS232C インターフェイス機器を通信状態にします。
④ 本製品の電源を ON します。
テスト用文字列「TRD RS232 Communication Check」が、RS232C インターフェイス機器へ繰り返し出力されます。